

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年 3 月18日

【発行者名】 大和住銀投信投資顧問株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 横井 正道

【本店の所在の場所】 東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 1 号

【事務連絡者氏名】 ディスクロージャー部

宮崎 洋行

【電話番号】 03-6205-0200

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース
アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース
アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 当初申込期間
アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース
アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース
各々につき、500億円を上限とします。

当初自己設定
アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）
100万円

継続申込期間
アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース
アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース
アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）

各々につき、1兆円を上限とします。

【縦覧に供する場所】 該当ありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成22年7月9日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の記載事項のうち、有価証券報告書の提出等に伴う訂正事項がありますので、本訂正届出書を提出するものであります。

2【訂正箇所および訂正事項】

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1 ファンドの性格

下線部が訂正部分です。

< 訂正前 >

(1) ファンドの目的及び基本的性格

(以下略)

ファンドの特色

(以下略)

当ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

当ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要は以下の通りです。

投資信託証券の概要は、平成22年7月9日現在で委託会社が知り得る情報を基に作成しています。

< ピムコ・アジア・ハイ・インカム・ボンド・ファンド（PIMCO Asia High Income Bond Fund）の概要 >

(以下略)

運用開始日	2010年7月30日（予定）
-------	----------------

(以下略)

PIMCOの概要

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー（PIMCO）は、米国カリフォルニア州ニューポートビーチを本拠とした世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。・PIMCOグループの運用資産残高は10,709億ドル（約100兆円）を超え、ニューポートビーチ、ニューヨーク、シンガポール、東京、ロンドン、シドニー、ミュンヘン、トロント、香港などの拠点に1,300名以上のスタッフを擁しています（平成22年3月末現在）。 |
|--|

(以下略)

(2) ファンドの沿革

平成22年7月9日 関東財務局に対する有価証券届出書の提出

平成22年7月30日 信託契約締結、当ファンドの設定・運用開始（予定）

(3) ファンドの仕組み

(以下略)

委託会社等の概況（平成22年5月末日現在）

（以下略）

・大株主の状況

名称	住所	所有株式数 （株）	比率 （％）
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	<u>東京都千代田区有楽町 1 - 1 - 2</u>	1,692,500	44.0

（以下略）

<訂正後>

(1) ファンドの目的及び基本的性格

(以下略)

ファンドの特色

(以下略)

当ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

当ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要は以下の通りです。

投資信託証券の概要は、平成23年1月末現在で委託会社が知り得る情報を基に作成しています。

<ピムコ・アジア・ハイ・インカム・ボンド・ファンド(PIMCO Asia High Income Bond Fund)の概要>

(以下略)

運用開始日	2010年7月30日
-------	------------

(以下略)

PIMCOの概要

- ・パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー(PIMCO)は、米国カリフォルニア州ニューポートビーチを本拠とした世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。
- ・PIMCOグループの運用資産残高は12,421億ドル(約101兆円)を超え、ニューポートビーチ、ニューヨーク、シンガポール、東京、ロンドン、シドニー、ミュンヘン、トロント、香港などの拠点に1,400名以上のスタッフを擁しています(平成22年12月末現在)。

(以下略)

(2) ファンドの沿革

平成22年7月30日 信託契約締結

平成22年7月30日 当ファンドの設定・運用開始

(3) ファンドの仕組み

(以下略)

委託会社等の概況(平成23年1月末現在)

(以下略)

・大株主の状況

名称	住所	所有株式数 (株)	比率 (%)
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	<u>東京都千代田区丸の内 1 - 1 - 2</u>	1,692,500	44.0

（以下略）

2 投資方針

下線部が訂正部分です。

< 訂正前 >

(2) 投資対象

(以下略)

運用の指図範囲

[各コース]

委託会社は、信託金を、主として信託約款に定める投資信託証券および大和住銀投信投資顧問株式会社を委託会社とし、住友信託銀行株式会社を受託会社として締結されたキャッシュ・マネジメント・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）に投資するほか、次に掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

(以下略)

(3) 運用体制

(以下略)

* 当ファンドの運用体制に係る運用本部の人員数は、平成22年7月9日現在で約100名です。

(以下略)

< 訂正後 >

(2) 投資対象

(以下略)

運用の指図範囲

[各コース]

委託会社（信託約款に規定する委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受けたものを含みます。）は、信託金を、主として信託約款に定める投資信託証券および大和住銀投信投資顧問株式会社を委託会社とし、住友信託銀行株式会社を受託会社として締結されたキャッシュ・マネジメント・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）に投資するほか、次に掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

(以下略)

(3) 運用体制

(以下略)

* 当ファンドの運用体制に係る運用本部の人員数は、平成23年1月末現在で約100名です。

(以下略)

[次へ](#)

5 運用状況

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

(1) 投資状況

（平成23年1月末現在）

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （キャッシュ・マネジメント・マザーファンド）	日本	168,397,176	0.53%
投資信託受益証券	ケイマン諸島	31,589,991,042	98.56%
純資産総額		32,051,774,564	-

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資状況>

（平成23年1月末現在）

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
国債証券	日本	3,349,213,600	75.68%
純資産総額		4,425,575,785	-

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

（平成23年1月末現在）

イ．主要銘柄の明細

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (INR) ケイマン諸島	投資信託受益 証券 -	13,274,486,295	0.9647 12,806,460,585	0.9561 12,691,736,346	- -	39.60%

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
2	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (IDR) ケイマン諸島	投資信託受益 証券 -	13,671,415,566	0.9185 12,558,497,727	0.9151 12,510,712,384	- -	39.03%
3	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (CNY) ケイマン諸島	投資信託受益 証券 -	6,703,969,681	0.9612 6,443,940,294	0.9528 6,387,542,312	- -	19.93%
4	キャッシュ・マネジメント・ マザーファンド 日本	親投資信託受 益証券 -	166,039,417	1.0141 168,381,097	1.0142 168,397,176	- -	0.53%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの主要銘柄の明細>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	156 国庫短期証券 日本	国債証券 -	1,300,000,000	99.93 1,299,199,400	99.95 1,299,456,600	- 2011/06/10	29.36%
2	147 国庫短期証券 日本	国債証券 -	400,000,000	99.97 399,885,200	99.99 399,992,400	- 2011/02/07	9.04%
3	161 国庫短期証券 日本	国債証券 -	400,000,000	99.96 399,858,000	99.98 399,924,000	- 2011/04/07	9.04%
4	155 国庫短期証券 日本	国債証券 -	300,000,000	99.96 299,908,200	99.98 299,964,600	- 2011/03/14	6.78%
5	148 国庫短期証券 日本	国債証券 -	250,000,000	99.97 249,927,500	99.99 249,991,500	- 2011/02/14	5.65%
6	154 国庫短期証券 日本	国債証券 -	200,000,000	99.96 199,936,800	99.99 199,980,600	- 2011/03/07	4.52%
7	160 国庫短期証券 日本	国債証券 -	200,000,000	99.96 199,928,800	99.98 199,968,000	- 2011/03/28	4.52%
8	150 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.97 99,972,500	99.99 99,994,500	- 2011/02/21	2.26%
9	152 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.96 99,968,700	99.99 99,992,400	- 2011/02/28	2.26%
10	163 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.95 99,951,100	99.94 99,949,000	- 2011/07/08	2.26%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

種類別	投資比率
投資信託受益証券	98.56%
親投資信託受益証券	0.53%
合計	99.08%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資有価証券の種類別投資比率>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

種類別	投資比率
国債証券	75.68%
合計	75.68%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

八．投資株式の業種別投資比率

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース
該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資株式の業種別投資比率>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

該当事項はありません。

投資不動産物件

（平成23年1月末現在）

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資不動産物件>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（平成23年1月末現在）

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

該当事項はありません。

<参考：マザーファンドのその他投資資産の主要なもの>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

該当事項はありません。

(3)運用実績

純資産の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （平成22年7月30日）	2,178	-	1.0000	-
平成22年8月末日	8,572	-	0.9915	-
平成22年9月末日	13,690	-	1.0147	-
平成22年10月末日	17,978	-	0.9885	-
平成22年11月末日	24,862	-	0.9901	-
第1特定期間末 （平成22年12月21日）	27,630	28,428	0.9724	1.0124
平成22年12月末日	29,039	-	0.9608	-
平成23年1月末日	32,051	-	0.9460	-

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

分配の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

期間	1口当りの分配金（円）
第1特定期間（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	0.0400

収益率の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

期間	収益率
第1特定期間（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	1.2%

（注）収益率＝（当特定期末分配付基準価額－前特定期末分配落基準価額）÷前特定期末分配落基準価額×100

(4)設定及び解約の実績

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

期間	設定総額（円）	解約総額（円）
第1特定期間（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	28,727,812,650	312,067,103

（注）本邦外における設定及び解約の実績はありません。

[次へ](#)

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

(1)投資状況

(平成23年1月末現在)

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （キャッシュ・マネジメント・マザーファンド）	日本	43,285,095	0.51%
投資信託受益証券	ケイマン諸島	8,359,933,217	99.02%
純資産総額		8,442,613,557	-

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資状況>

(平成23年1月末現在)

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
国債証券	日本	3,349,213,600	75.68%
純資産総額		4,425,575,785	-

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2)投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(平成23年1月末現在)

イ．主要銘柄の明細

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (JPY, Hedged)	投資信託受益証券	8,523,586,070	0.9824	0.9808	-	99.02%
	ケイマン諸島	-		8,374,065,240	8,359,933,217	-	
2	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	親投資信託受益証券	42,679,053	1.0141	1.0142	-	0.51%

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
	日本	-		43,280,882	43,285,095	-	

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの主要銘柄の明細>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	156 国庫短期証券 日本	国債証券 -	1,300,000,000	99.93 1,299,199,400	99.95 1,299,456,600	- 2011/06/10	29.36%
2	147 国庫短期証券 日本	国債証券 -	400,000,000	99.97 399,885,200	99.99 399,992,400	- 2011/02/07	9.04%
3	161 国庫短期証券 日本	国債証券 -	400,000,000	99.96 399,858,000	99.98 399,924,000	- 2011/04/07	9.04%
4	155 国庫短期証券 日本	国債証券 -	300,000,000	99.96 299,908,200	99.98 299,964,600	- 2011/03/14	6.78%
5	148 国庫短期証券 日本	国債証券 -	250,000,000	99.97 249,927,500	99.99 249,991,500	- 2011/02/14	5.65%
6	154 国庫短期証券 日本	国債証券 -	200,000,000	99.96 199,936,800	99.99 199,980,600	- 2011/03/07	4.52%
7	160 国庫短期証券 日本	国債証券 -	200,000,000	99.96 199,928,800	99.98 199,968,000	- 2011/03/28	4.52%
8	150 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.97 99,972,500	99.99 99,994,500	- 2011/02/21	2.26%
9	152 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.96 99,968,700	99.99 99,992,400	- 2011/02/28	2.26%
10	163 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.95 99,951,100	99.94 99,949,000	- 2011/07/08	2.26%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

種類別	投資比率
投資信託受益証券	99.02%
親投資信託受益証券	0.51%
合計	99.53%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資有価証券の種類別投資比率>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

種類別	投資比率
国債証券	75.68%
合計	75.68%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース
該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資株式の業種別投資比率>
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド
該当事項はありません。

投資不動産物件

（平成23年1月末現在）

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース
該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資不動産物件>
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド
該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（平成23年1月末現在）

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース
該当事項はありません。

<参考：マザーファンドのその他投資資産の主要なもの>
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

該当事項はありません。

(3)運用実績

純資産の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （平成22年7月30日）	121	-	1.0000	-
平成22年8月末日	1,107	-	1.0168	-
平成22年9月末日	2,861	-	1.0256	-
平成22年10月末日	4,739	-	1.0276	-
平成22年11月末日	7,041	-	1.0109	-
第1特定期間末 （平成22年12月21日）	7,812	7,933	0.9993	1.0233
平成22年12月末日	8,095	-	0.9976	-
平成23年1月末日	8,442	-	0.9955	-

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

分配の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

期間	1口当りの分配金（円）
第1特定期間（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	0.0240

収益率の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

期間	収益率
第1特定期間（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	2.3%

（注）収益率＝（当特定期末分配付基準価額－前特定期末分配落基準価額）÷前特定期末分配落基準価額×100

（4）設定及び解約の実績

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

期間	設定総額（円）	解約総額（円）
第1特定期間（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	7,862,458,629	43,640,856

（注）本邦外における設定及び解約の実績はありません。

[前へ](#) [次へ](#)

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）

(1)投資状況

(平成23年1月末現在)

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （キャッシュ・マネジメント・マザーファンド）	日本	1,000,447	100.00%
純資産総額		1,000,406	-

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資状況>

(平成23年1月末現在)

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
国債証券	日本	3,349,213,600	75.68%
純資産総額		4,425,575,785	-

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2)投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(平成23年1月末現在)

イ．主要銘柄の明細

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 日本	親投資信託受益証券 -	986,440	1.0139 1,000,250	1.0142 1,000,447	- -	100.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの主要銘柄の明細>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	156 国庫短期証券 日本	国債証券 -	1,300,000,000	99.93 1,299,199,400	99.95 1,299,456,600	- 2011/06/10	29.36%
2	147 国庫短期証券 日本	国債証券 -	400,000,000	99.97 399,885,200	99.99 399,992,400	- 2011/02/07	9.04%
3	161 国庫短期証券 日本	国債証券 -	400,000,000	99.96 399,858,000	99.98 399,924,000	- 2011/04/07	9.04%
4	155 国庫短期証券 日本	国債証券 -	300,000,000	99.96 299,908,200	99.98 299,964,600	- 2011/03/14	6.78%
5	148 国庫短期証券 日本	国債証券 -	250,000,000	99.97 249,927,500	99.99 249,991,500	- 2011/02/14	5.65%
6	154 国庫短期証券 日本	国債証券 -	200,000,000	99.96 199,936,800	99.99 199,980,600	- 2011/03/07	4.52%
7	160 国庫短期証券 日本	国債証券 -	200,000,000	99.96 199,928,800	99.98 199,968,000	- 2011/03/28	4.52%
8	150 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.97 99,972,500	99.99 99,994,500	- 2011/02/21	2.26%
9	152 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.96 99,968,700	99.99 99,992,400	- 2011/02/28	2.26%
10	163 国庫短期証券 日本	国債証券 -	100,000,000	99.95 99,951,100	99.94 99,949,000	- 2011/07/08	2.26%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

種類別	投資比率
親投資信託受益証券	100.00%
合計	100.00%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

<参考：マザーファンドの投資有価証券の種類別投資比率>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

種類別	投資比率
国債証券	75.68%
合計	75.68%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資株式の業種別投資比率>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

該当事項はありません。

投資不動産物件

（平成23年1月末現在）

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

該当事項はありません。

<参考：マザーファンドの投資不動産物件>

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（平成23年1月末現在）

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

該当事項はありません。

<参考：マザーファンドのその他投資資産の主要なもの>
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

該当事項はありません。

（３）運用実績

純資産の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （平成22年7月30日）	1	-	1.0000	-
平成22年8月末日	1	-	1.0001	-
平成22年9月末日	1	-	1.0001	-
平成22年10月末日	1	-	1.0002	-
平成22年11月末日	1	-	1.0002	-
第1計算期間末 （平成22年12月21日）	1	-	1.0003	-
平成22年12月末日	1	-	1.0003	-
平成23年1月末日	1	-	1.0004	-

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

分配の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

該当事項はありません。

収益率の推移

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

期間	収益率
第1期（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	0.0%

（注）収益率＝（当計算期末分配付基準価額－前計算期末分配落基準価額）÷前計算期末分配落基準価額×100

（４）設定及び解約の実績

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

期間	設定総額（円）	解約総額（円）
第1期（平成22年7月30日～平成22年12月21日）	1,000,000	0

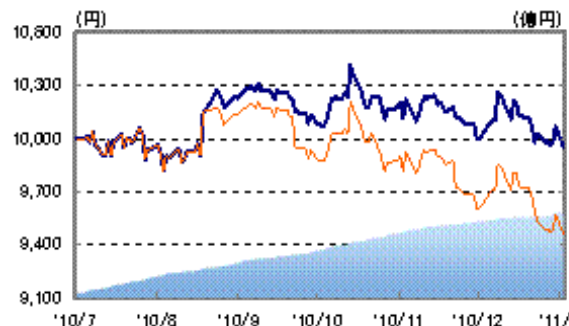
（注）本邦外における設定及び解約の実績はありません。

（参考情報）

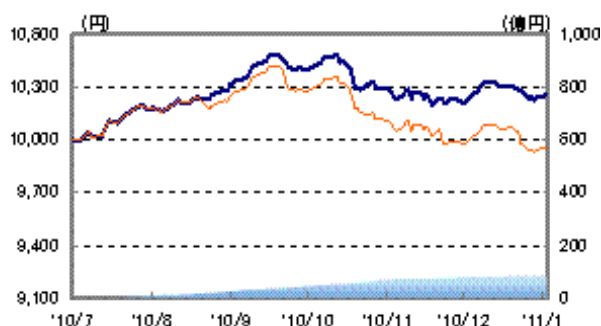
2011年1月31日現在

○ 基準価額・純資産の推移

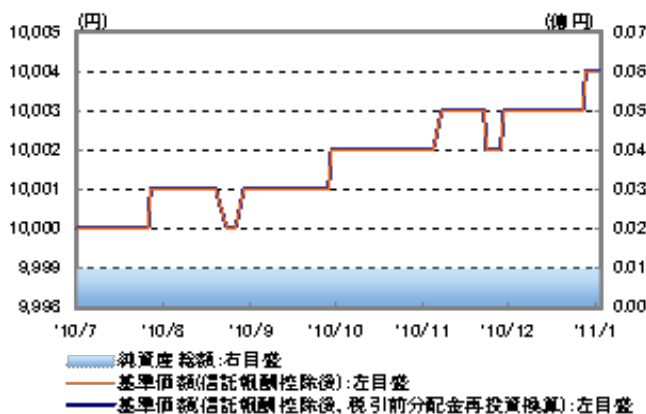
アジア 3通貨コース



円コース



マネーボールファンド



*基準価額（信託報酬控除後、税引前分配金再投資換算）は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しております。

○ 分配の推移

	アジア 3通貨コース	円コース
2011年 1月	100円	60円
2010年12月	100円	60円
2010年11月	100円	60円
2010年10月	100円	60円
2010年 9月	100円	60円
直近1年間累計	500円	300円
設定来累計	500円	300円

*分配金は1万口当たり、税引前

	マネーボールファンド
2010年12月	0円
設定来累計	0円

○ 主要な資産の状況

アジア3通貨コース

投資銘柄	投資比率
PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (INR)	39.6%
PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (IDR)	39.0%
PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (CNY)	19.9%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.5%

円コース

投資銘柄	投資比率
PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (JPY, Hedged)	99.0%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.5%

マネーブルファンド

投資銘柄	投資比率
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	100.0%

*投資比率は全て純資産総額対比

■参考情報（上位10銘柄）

ピムコ・アジア・ハイ・インカム・ボンド・ファンド

	投資銘柄	国名	種別	クーポン	償還日	投資比率
1	POWER SECTOR ASSETS & LI GOV GTD REGS	フィリピン	準国債	7.390%	2024/12/2	8.2%
2	INDO INTGRD ENERGY II CO GTD REGS	インドネシア	事業債	9.750%	2016/11/5	6.0%
3	STAR ENERGY GEOTHERMAL W REGS	インドネシア	事業債	11.500%	2015/2/12	4.5%
4	STATS CHIPPAK LTD CO GTD	シンガポール	事業債	7.500%	2015/8/12	3.8%
5	LISTRINDO CAPITAL BV CO GTD REGS	インドネシア	事業債	9.250%	2015/1/29	3.7%
6	SIGMA CAPITAL PTE LTD CO GTD	インドネシア	事業債	9.000%	2015/4/30	3.5%
7	AGILE PROPERTY HLDGS LTD SR UNSECURED	中国	事業債	10.000%	2016/11/14	3.0%
8	NOBLE GROUP LTD SR UNSECURED REGS	香港	事業債	6.750%	2020/1/29	2.7%
9	INDOSAT PALAPA CO BV CO GTD REGS	インドネシア	準国債	7.375%	2020/7/29	2.7%
10	HYUNDAI MOTOR MANUFACTUR SR UNSE REGS	韓国	事業債	4.500%	2015/4/15	2.5%

*投資比率はピムコ・アジア・ハイ・インカム・ボンド・ファンドの純資産総額対比

*準国債:政府による出資が50%以上の企業の発行する債券

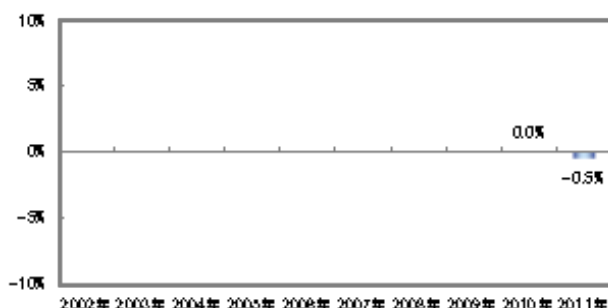
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

	投資銘柄	種別	投資比率
1	156 国庫短期証券	国債証券	29.4%
2	147 国庫短期証券	国債証券	9.0%
3	161 国庫短期証券	国債証券	9.0%
4	155 国庫短期証券	国債証券	6.8%
5	148 国庫短期証券	国債証券	5.6%
6	154 国庫短期証券	国債証券	4.5%
7	160 国庫短期証券	国債証券	4.5%
8	150 国庫短期証券	国債証券	2.3%
9	152 国庫短期証券	国債証券	2.3%
10	163 国庫短期証券	国債証券	2.3%

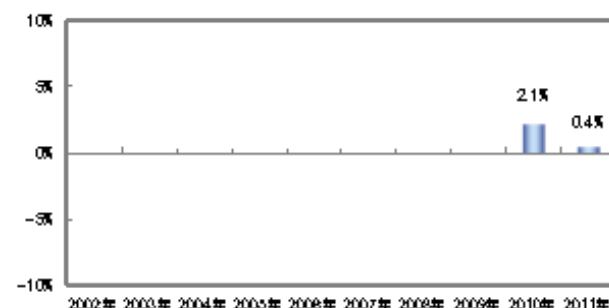
*投資比率はキャッシュ・マネジメント・マザーファンドの純資産総額対比

○ 年間収益率の推移

アジア3通貨コース



円コース



マネー プールファンド



*ファンドの収益率は暦年ベースで表示しております。但し、2010年は当初設定日(2010年7月30日)から年末までの収益率、2011年は1月末までの収益率です。

*ファンドの年間収益率は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しております。

*ファンドには、ベンチマークはありません。

- ・ファンドの運用実績はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
- ・ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

[前へ](#)

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成22年7月30日から平成22年12月21日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間（平成22年7月30日から平成22年12月21日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

[次へ](#)

1 財務諸表

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

(1) 貸借対照表

区 分	当 期 平成22年12月21日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	733,723,524
投資信託受益証券	27,304,478,988
親投資信託受益証券	141,986,486
未収入金	87,707
流動資産合計	28,180,276,705
資産合計	28,180,276,705
負債の部	
流動負債	
未払金	212,489,000
未払収益分配金	284,157,455
未払解約金	18,491,865
未払受託者報酬	538,032
未払委託者報酬	33,358,743
その他未払費用	460,979
流動負債合計	549,496,074
負債合計	549,496,074
純資産の部	
元本等	
元本	28,415,745,547
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	784,964,916
（分配準備積立金）	233,515,818
元本等合計	27,630,780,631
純資産合計	27,630,780,631
負債純資産合計	28,180,276,705

(2) 損益及び剰余金計算書

区 分	当 期 自 平成22年 7 月30日 至 平成22年12月21日 金 額（円）
営業収益	
受取配当金	968,620,350
受取利息	228,911
有価証券売買等損益	830,690,354
営業収益合計	138,158,907
営業費用	
受託者報酬	1,569,998
委託者報酬	97,342,723
その他費用	460,979
営業費用合計	99,373,700
営業利益又は営業損失（ ）	38,785,207
経常利益又は経常損失（ ）	38,785,207
当期純利益又は当期純損失（ ）	38,785,207
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	1,622,174
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,450,530
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,450,530
剰余金減少額又は欠損金増加額	28,672,680
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	28,672,680
分配金	798,150,147
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	784,964,916

[次へ](#)

(3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 平成22年 7 月30日	
	至 平成22年12月21日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。	
	また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 外国投資信託受益証券についての受取配当金は、原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。	
	(2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	当期	
	平成22年12月21日現在	
1. 元本状況		
期首元本額	2,178,496,457円	
期中追加設定元本額	26,549,316,193円	
期中一部解約元本額	312,067,103円	
2. 受益権の総数	28,415,745,547口	
3. 元本の欠損	784,964,916円	

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

当期	
自 平成22年 7 月30日	
至 平成22年12月21日	
1. 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額	36,104,368円
2. 分配金の計算過程	
第1期計算期間末（平成22年9月21日）に、投資信託約款に基づき計算した346,619,120円（1万口当たり297.63円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い116,458,040円（1万口当たり100円）を分配しております。	
配当等収益 （費用控除後）	185,720,263円
有価証券売買等損益 （費用控除後）	156,988,203円
収益調整金	3,910,654円
分配準備積立金	0円
分配可能額	346,619,120円
（1万口当たり分配可能額）	(297.63円)
収益分配金	116,458,040円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)
第2期計算期間末（平成22年10月21日）に、投資信託約款に基づき計算した501,842,392円（1万口当たり302.37円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い165,968,250円（1万口当たり100円）を分配しております。	
配当等収益 （費用控除後）	167,301,254円

有価証券売買等損益	0円
収益調整金	108,507,548円
分配準備積立金	226,033,590円
分配可能額	501,842,392円
（１万口当たり分配可能額）	(302.37円)
収益分配金	165,968,250円
（１万口当たり収益分配金）	(100円)

第３期計算期間末（平成22年11月22日）に、投資信託約款に基づき計算した705,832,671円（１万口当たり304.81円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1231,566,402円（１万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	226,170,346円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	252,835,365円
分配準備積立金	226,826,960円
分配可能額	705,832,671円
（１万口当たり分配可能額）	(304.81円)
収益分配金	231,566,402円
（１万口当たり収益分配金）	(100円)

第４期計算期間末（平成22年12月21日）に、投資信託約款に基づき計算した884,129,170円（１万口当たり311.14円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1284,157,455円（１万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	297,989,445円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	366,455,897円
分配準備積立金	219,683,828円
分配可能額	884,129,170円
（１万口当たり分配可能額）	(311.14円)
収益分配金	284,157,455円
（１万口当たり収益分配金）	(100円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 平成22年 7 月30日
	至 平成22年12月21日
１．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第２条第４項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
２．金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、投資信託受益証券においては、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。
３．金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、法務コンプライアンス部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用本部に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
４．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当期
	平成22年12月21日現在

1. 金融商品の時価及び貸借 対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額は ありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としてお ります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

当期（平成22年12月21日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	12,808
投資信託受益証券	577,735,887
合計	577,723,079

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

当期（平成22年12月21日現在）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当期（自 平成22年 7 月30日 至 平成22年12月21日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

当期 平成22年12月21日現在
1口当たり純資産額
0.9724円 「1口 = 1円（10,000口 = 9,724円）」

（4）附属明細表

有価証券明細表

< 株式以外の有価証券 >

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (INR)	11,169,879,642	10,978,874,700	
	投資信託受益証券	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (IDR)	11,465,017,622	10,866,543,702	
	投資信託受益証券	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (CNY)	5,640,690,831	5,459,060,586	
	親投資信託 受益証券	キャッシュ・マネジメン ト・マザーファンド	140,026,121	141,986,486	
合計 4銘柄			28,415,614,216	27,446,465,474	

[前へ](#) [次へ](#)

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

(1) 貸借対照表

区 分	当 期 平成22年12月21日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	191,908,774
投資信託受益証券	7,704,276,950
親投資信託受益証券	39,943,423
未収入金	47,400
流動資産合計	7,936,176,547
資産合計	7,936,176,547
負債の部	
流動負債	
未払金	57,103,000
未払収益分配金	46,912,906
未払解約金	9,480,014
未払受託者報酬	152,124
未払委託者報酬	9,431,897
その他未払費用	140,800
流動負債合計	123,220,741
負債合計	123,220,741
純資産の部	
元本等	
元本	7,818,817,773
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	5,861,967
（分配準備積立金）	33,190,313
元本等合計	7,812,955,806
純資産合計	7,812,955,806
負債純資産合計	7,936,176,547

(2) 損益及び剰余金計算書

区 分	当 期 自 平成22年 7 月30日 至 平成22年12月21日 金 額（円）
営業収益	
受取配当金	174,908,781
受取利息	63,899
有価証券売買等損益	205,110,265
営業収益合計	30,137,585
営業費用	
受託者報酬	370,668
委託者報酬	22,983,678
その他費用	140,800
営業費用合計	23,495,146
営業利益又は営業損失（ ）	53,632,731
経常利益又は経常損失（ ）	53,632,731
当期純利益又は当期純損失（ ）	53,632,731
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	229,934
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	168,777,745
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	168,777,745
剰余金減少額又は欠損金増加額	654,721
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	654,721
分配金	120,582,194
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	5,861,967

[前へ](#) [次へ](#)

(3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期
	自 平成22年 7 月30日
	至 平成22年12月21日
1 . 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。 また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2 . 収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 外国投資信託受益証券についての受取配当金は、原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	当期
	平成22年12月21日現在
1 . 元本状況	
期首元本額	121,823,019円
期中追加設定元本額	7,740,635,610円
期中一部解約元本額	43,640,856円
2 . 受益権の総数	7,818,817,773口
3 . 元本の欠損	5,861,967円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

当期	
自 平成22年 7 月30日	
至 平成22年12月21日	
1 . 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額	8,499,775円
2 . 分配金の計算過程	
第1期計算期間末（平成22年9月21日）に、投資信託約款に基づき計算した59,131,919円（1万口当たり285.69円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い12,418,676円（1万口当たり60円）を分配しております。	
配当等収益 （費用控除後）	55,025,392円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	4,106,527円
分配準備積立金	0円
分配可能額	59,131,919円
（1万口当たり分配可能額）	(285.69円)
収益分配金	12,418,676円
（1万口当たり収益分配金）	(60円)
第2期計算期間末（平成22年10月21日）に、投資信託約款に基づき計算した155,945,638円（1万口当たり391.46円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い123,902,339円（1万口当たり60円）を分配しております。	
配当等収益 （費用控除後）	23,504,134円

有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	89,916,941円
分配準備積立金	42,524,563円
分配可能額	155,945,638円
（１万口当たり分配可能額）	(391.46円)
収益分配金	23,902,339円
（１万口当たり収益分配金）	(60円)

第３期計算期間末（平成22年11月22日）に、投資信託約款に基づき計算した174,586,600円（１万口当たり280.47円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い137,348,273円（１万口当たり60円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	31,033,011円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	101,452,821円
分配準備積立金	42,100,768円
分配可能額	174,586,600円
（１万口当たり分配可能額）	(280.47円)
収益分配金	37,348,273円
（１万口当たり収益分配金）	(60円)

第４期計算期間末（平成22年12月21日）に、投資信託約款に基づき計算した217,598,643円（１万口当たり278.30円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い146,912,906円（１万口当たり60円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	44,492,831円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	137,495,424円
分配準備積立金	35,610,388円
分配可能額	217,598,643円
（１万口当たり分配可能額）	(278.30円)
収益分配金	46,912,906円
（１万口当たり収益分配金）	(60円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 平成22年 7 月30日
	至 平成22年12月21日
１．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第２条第４項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
２．金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、投資信託受益証券においては、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。
３．金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、法務コンプライアンス部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用本部に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
４．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当期
	平成22年12月21日現在

1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありま せん。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としており ます。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

当期（平成22年12月21日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	3,717
投資信託受益証券	104,804,296
合計	104,800,579

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

当期（平成22年12月21日現在）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当期（自 平成22年 7 月30日 至 平成22年12月21日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

当期 平成22年12月21日現在
1口当たり純資産額
0.9993円 「1口＝1円（10,000口＝9,993円）」

（4）附属明細表

有価証券明細表

<株式以外の有価証券>

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	PIMCO Asia High Income Bond Fund - J (JPY, Hedged)	7,831,937,532	7,704,276,950	
	親投資信託	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	39,391,936	39,943,423	
	受益証券				
合計 2銘柄			7,871,329,468	7,744,220,373	

[前へ](#) [次へ](#)

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーブルファンド）

(1) 貸借対照表

区 分	第 1 期 平成22年12月21日現在 金 額（円）
資産の部	
流動資産	
親投資信託受益証券	1,000,395
流動資産合計	1,000,395
資産合計	1,000,395
負債の部	
流動負債	
未払委託者報酬	144
流動負債合計	144
負債合計	144
純資産の部	
元本等	
元本	1,000,000
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	251
（分配準備積立金）	365
元本等合計	1,000,251
純資産合計	1,000,251
負債純資産合計	1,000,395

(2) 損益及び剰余金計算書

区 分	第 1 期 自 平成22年 7 月30日 至 平成22年12月21日 金 額（円）
営業収益	
有価証券売買等損益	395
営業収益合計	395
営業費用	
委託者報酬	144
営業費用合計	144
営業利益又は営業損失（ ）	251
経常利益又は経常損失（ ）	251
当期純利益又は当期純損失（ ）	251
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	-
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	-
分配金	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	251

[前へ](#) [次へ](#)

(3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第 1 期
	自 平成22年 7 月30日
	至 平成22年12月21日
1 . 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。
2 . 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3 . その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの計算期間は、投資信託約款の定めに従い、平成22年 7 月30日から平成22年12月21日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第 1 期
	平成22年12月21日現在
1 . 元本状況 期首元本額 期中追加設定元本額 期中一部解約元本額	1,000,000円 - -
2 . 受益権の総数	1,000,000口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第 1 期	
自 平成22年 7 月30日	
至 平成22年12月21日	
分配金の計算過程 該当事項はありません。	

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第 1 期
	自 平成22年 7 月30日
	至 平成22年12月21日
1 . 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第 2 条第 4 項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2 . 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク及び流動性リスクであります。
3 . 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、法務コンプライアンス部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用本部に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
4 . 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

--	--

金融商品の時価等に関する事項

項目	第 1 期
	平成22年12月21日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第 1 期（平成22年12月21日現在）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	395
合計	395

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第 1 期（平成22年12月21日現在）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第 1 期（自 平成22年 7 月30日 至 平成22年12月21日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

第 1 期
平成22年12月21日現在
1口当たり純資産額
1.0003円
「1口＝1円（10,000口＝10,003円）」

（4）附属明細表

有価証券明細表

< 株式以外の有価証券 >

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	親投資信託	キャッシュ・マネジメン ト・マザーファンド	986,583	1,000,395	
	受益証券				
合計		1銘柄	986,583	1,000,395	

[前へ](#) [次へ](#)

< 参考 >

当ファンドは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

(1) 貸借対照表

区 分	平成22年12月21日現在 金 額 (円)
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	937,684,852
国債証券	4,048,816,000
流動資産合計	4,986,500,852
資産合計	4,986,500,852
負債の部	
流動負債	
未払金	499,732,400
未払解約金	9,939,454
流動負債合計	509,671,854
負債合計	509,671,854
純資産の部	
元本等	
元本	4,414,973,991
剰余金	
剰余金又は欠損金 ()	61,855,007
元本等合計	4,476,828,998
純資産合計	4,476,828,998
負債純資産合計	4,986,500,852

[前へ](#) [次へ](#)

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 平成22年 7月30日
	至 平成22年12月21日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券 個別法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く）又は価格情報会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。 また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	平成22年12月21日現在
1. 元本状況	
開示対象ファンドの計算期間の期首における当該親投資信託の元本額	2,263,210,930円
期中追加設定元本額	3,165,398,905円
期中一部解約元本額	1,013,635,844円
元本の内訳	
S M B C ファンドラップ・欧州株	10,013,150円
S M B C ファンドラップ・新興国株	5,174,500円
S M B C ファンドラップ・コモディティ	1,229,641円
S M B C ファンドラップ・米国債	11,615,842円
S M B C ファンドラップ・欧州債	16,089,837円
S M B C ファンドラップ・新興国債	3,745,759円
S M B C ファンドラップ・日本グロース株	15,780,851円
S M B C ファンドラップ・日本中小型株	3,528,562円
S M B C ファンドラップ・日本債	22,751,603円
D C 日本国債プラス	15,507,222円
エマージング・ボンド・ファンド・円コース（毎月分配型）	194,581,920円
エマージング・ボンド・ファンド・豪ドルコース（毎月分配型）	99,003,440円
エマージング・ボンド・ファンド・ニュージーランドドルコース（毎月分配型）	6,604,334円
エマージング・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース（毎月分配型）	2,744,996,842円
エマージング・ボンド・ファンド・南アフリカランドコース（毎月分配型）	12,623,125円
エマージング・ボンド・ファンド・トルコリラコース（毎月分配型）	20,502,667円
エマージング・ボンド・ファンド（マネーボールファンド）	358,841,953円
大和住銀 中国株式ファンド（マネー・ポートフォリオ）	190,605,378円
エマージング好配当株オープン マネー・ポートフォリオ	22,916,277円
エマージング・ボンド・ファンド・中国元コース（毎月分配型）	29,687,828円
グローバル・ハイイールド債券ファンド（円コース）	13,969,644円
グローバル・ハイイールド債券ファンド（中国・インド・インドネシア通貨コース）	23,283,104円
グローバル・ハイイールド債券ファンド（BRICs通貨コース）	23,880,280円
グローバル・ハイイールド債券ファンド（世界6地域通貨コース）	47,162,593円
グローバル・ハイイールド債券ファンド（マネーボールファンド）	986,334円
アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース	140,026,121円
アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース	39,391,936円
アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーボールファンド）	986,583円
ストラテジック・アジア株式ファンド（限定追加型）	339,486,665円
合計	4,414,973,991円
2. 受益権の総数	4,414,973,991口

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成22年 7月30日 至 平成22年12月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク及び流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のファンドの運用におけるリスク管理については、運用部門から独立した組織体制で行っております。運用管理委員会（代表取締役社長を委員長とします。）は、ファンドの運用状況を総合的に分析・評価するとともに、運用リスク管理の強化・改善に向けた方策を討議・決定しております。また、法務コンプライアンス部運用審査室は、ファンドのパフォーマンス分析・評価並びにリスク分析を行い、運用本部に開示するとともに、運用管理委員会を通じて、運用リスクの軽減に向けた提言を行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	平成22年12月21日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

（平成22年12月21日現在）

種類	計算期間 の損益に含まれた評価差額（円）
国 債 証 券	438,200
合計	438,200

「計算期間」とは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」の計算期間の期首日から開示対象ファンドの期末日までの期間（平成22年 7月27日から平成22年12月21日まで）を指しております。

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（平成22年12月21日現在）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

（自 平成22年 7月30日 至 平成22年12月21日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

平成22年12月21日現在	
1口当たり純資産額	1.0140円 「1口＝1円（10,000口＝10,140円）」

(3) 附属明細表

有価証券明細表

< 株式以外の有価証券 >

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
円	国債証券	81 国庫短期証券	100,000,000	99,992,400	
	国債証券	119 国庫短期証券	100,000,000	99,994,600	
	国債証券	139 国庫短期証券	200,000,000	199,995,400	
	国債証券	142 国庫短期証券	200,000,000	199,986,600	
	国債証券	144 国庫短期証券	100,000,000	99,991,100	
	国債証券	146 国庫短期証券	500,000,000	499,942,000	
	国債証券	147 国庫短期証券	400,000,000	399,944,400	
	国債証券	148 国庫短期証券	250,000,000	249,959,500	
	国債証券	150 国庫短期証券	100,000,000	99,981,500	
	国債証券	152 国庫短期証券	100,000,000	99,979,200	
	国債証券	154 国庫短期証券	200,000,000	199,953,800	
	国債証券	155 国庫短期証券	300,000,000	299,923,800	
	国債証券	156 国庫短期証券	200,000,000	199,873,400	
	国債証券	156 国庫短期証券	200,000,000	199,873,400	
	国債証券	156 国庫短期証券	200,000,000	199,873,400	
	国債証券	156 国庫短期証券	200,000,000	199,873,400	
	国債証券	156 国庫短期証券	300,000,000	299,810,100	
	国債証券	160 国庫短期証券	200,000,000	199,940,000	
	国債証券	161 国庫短期証券	200,000,000	199,928,000	
合計 15銘柄			4,050,000,000	4,048,816,000	

[前へ](#)
[次へ](#)

2 ファンドの現況

純資産額計算書

(平成23年1月末現在)

アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース

資産総額	32,342,577,314 円
負債総額	290,802,750 円
純資産総額 (-)	32,051,774,564 円
発行済数量	33,882,470,503 口
1単位当り純資産額 (/)	0.9460 円

アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース

資産総額	8,525,723,685 円
負債総額	83,110,128 円
純資産総額 (-)	8,442,613,557 円
発行済数量	8,480,917,072 口
1単位当り純資産額 (/)	0.9955 円

アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネーブルファンド）

資産総額	1,000,447 円
負債総額	41 円
純資産総額 (-)	1,000,406 円
発行済数量	1,000,000 口
1単位当り純資産額 (/)	1.0004 円

<参考：マザーファンドの純資産額計算書>

(平成23年1月末現在)

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

資産総額	4,540,708,962 円
負債総額	115,133,177 円
純資産総額 (-)	4,425,575,785 円
発行済数量	4,363,771,342 口
1単位当り純資産額 (/)	1.0142 円

[前へ](#)

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

1 委託会社等の概況

(1) 資本金の額

資本金の額：20億円（平成23年1月末現在）

会社が発行する株式総数：12,800,000株

発行済株式総数：3,850,000株

最近5年間ににおける主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

(2) 会社の機構

会社は、8名以内で構成される取締役により運営されます。取締役は、株主総会の決議によって選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上を有する株主が出席し、議決権を行使することができる総株主の議決権の3分の2以上をもってこれを行います。

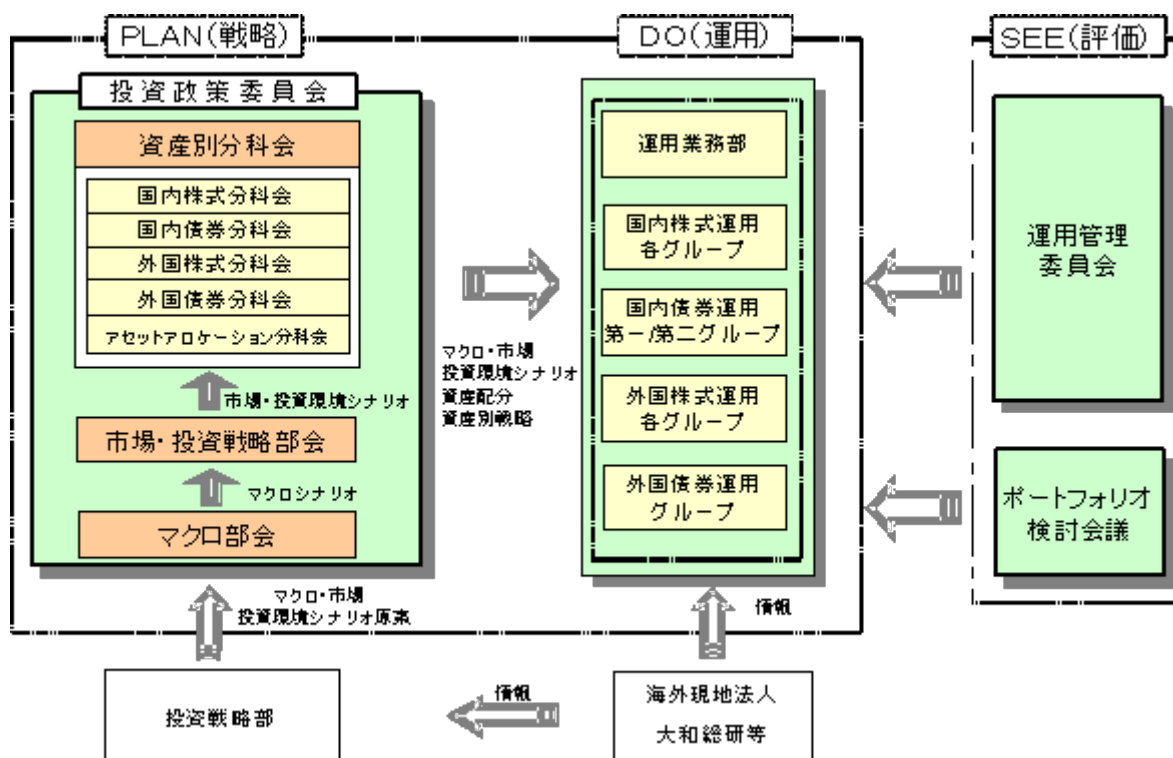
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。補欠として選任された取締役の任期は、前任取締役の任期の満了する時までとします。

取締役会は、取締役会の決議によって取締役の中から取締役社長、取締役副社長各1名、専務取締役および常務取締役若干名を選定することができます。また代表取締役は2名とし、取締役社長および取締役副社長がこれに就任します。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表取締役が招集し、招集通知は3日前までにこれを発します。ただし、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の6名以上が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

< 投信運用の意思決定プロセス >



2 事業の内容及び営業の概況

委託会社は、株式会社住友銀行（現株式会社三井住友フィナンシャルグループ）および大和証券株式会社（現株式会社大和証券グループ本社）の戦略的提携により平成11年4月1日付で、大和投資顧問株式会社と住銀投資顧問株式会社およびエス・ビー・アイ・エム投信株式会社の三社が合併して設立された会社です。

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成23年1月末現在、委託会社が運用の指図を行っている投資信託の総ファンド数は、143本であり、その純資産総額は、約2,663,094百万円です（なお、親投資信託47本は、ファンド数及び純資産総額からは除いております。）。

種類	ファンド数	純資産総額
単位型株式投資信託	3	16,537百万円
追加型株式投資信託	139	2,643,420百万円
追加型公社債投資信託	1	3,136百万円
合計	143	2,663,094百万円

[次へ](#)

3 委託会社等の経理状況

1．委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号。）に基づいて作成しております。なお、第37期事業年度（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）については、改正前の財務諸表等規則に基づき、第38期事業年度（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）については、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号。）に基づいて作成しております。

2．財務諸表及び中間財務諸表の記載金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3．委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第37期事業年度（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）及び、第38期事業年度（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）の財務諸表について、あずさ監査法人による監査を受け、第39期中間会計期間の中間財務諸表（自平成22年4月1日至平成22年9月30日）については、有限責任あずさ監査法人による中間監査を受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任あずさ監査法人となりました。

[次へ](#)

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

		第37期 (平成21年3月31日)	第38期 (平成22年3月31日)
資産の部			
流動資産			
現金・預金		8,926,038	10,732,367
前払費用		164,321	158,204
未収還付法人税等		304,359	-
未収収益		2,200,246	3,018,894
繰延税金資産		302,927	401,279
その他		96,171	3
流動資産計		11,994,065	14,310,748
固定資産			
有形固定資産			
建物	1	397,192	330,961
器具備品	1	98,818	66,930
土地		710	710
建設仮勘定		3,911	-
有形固定資産計		500,632	398,601
無形固定資産			
ソフトウェア		445,887	561,554
電話加入権		12,706	12,706
無形固定資産計		458,593	574,261
投資その他の資産			
投資有価証券		3,812,850	4,474,278
関係会社株式		1,169,774	1,169,774
従業員長期貸付金		9,100	5,277
長期差入保証金		742,547	743,958
出資金		161,517	161,517
繰延税金資産		557,369	536,417
その他		1,323	916
貸倒引当金		70,350	73,350
投資その他の資産計		6,384,132	7,018,789
固定資産計		7,343,357	7,991,652

資産合計

19,337,423

22,302,401

(単位：千円)		
	第37期 (平成21年3月31日)	第38期 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	73,433	183,571
未払費用	1,102,827	1,657,874
未払法人税等	-	915,515
前受収益	8,983	2,895
賞与引当金	604,600	715,800
役員賞与引当金	48,800	58,000
その他	18,721	18,976
流動負債計	1,857,365	3,552,633
固定負債		
退職給付引当金	751,197	835,692
役員退職慰労引当金	133,802	173,442
固定負債計	885,000	1,009,135
負債合計	2,742,365	4,561,769

	(単位：千円)	
	第37期 (平成21年3月31日)	第38期 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	156,268	156,268
資本剰余金合計	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金	13,220,524	14,232,788
利益剰余金合計	14,664,255	15,676,519
株主資本合計	16,820,524	17,832,788
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	225,466	92,156
評価・換算差額等合計	225,466	92,156
純資産合計	16,595,057	17,740,631
負債純資産合計	19,337,423	22,302,401

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	第37期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
営業収益		
運用受託報酬	4,061,953	3,603,017
委託者報酬	15,381,937	16,956,717
その他営業収益	23,815	24,464
営業収益計	19,467,706	20,584,199
営業費用		
支払手数料	7,587,789	8,348,565
広告宣伝費	139,283	164,821
公告費	1,590	-
調査費		
調査費	1,208,212	1,113,852
委託調査費	1,691,482	1,923,670
委託計算費	112,690	118,521
営業雑経費		
通信費	27,023	29,464
印刷費	288,628	325,398
協会費	21,841	16,722
諸会費	8,534	6,036
その他	4,503	34,513
営業費用計	11,091,578	12,081,565
一般管理費		
給料		
役員報酬	205,830	205,410
給料・手当	2,704,289	2,717,562
賞与	40,459	40,152
退職金	5,076	4,038
福利厚生費	457,355	478,341
交際費	11,634	14,440
旅費交通費	144,711	129,350
租税公課	57,374	59,772

不動産賃借料	838,846	848,510
退職給付費用	171,337	190,115
固定資産減価償却費	168,629	119,125
賞与引当金繰入額	604,600	715,800
役員退職慰労引当金繰入額	39,220	39,640
役員賞与引当金繰入額	48,800	58,000
諸経費	282,477	233,998
一般管理費計	5,780,642	5,854,257
営業利益	2,595,485	2,648,375
営業外収益		
受取配当金	354,591	502,114
受取利息	22,205	14,130
投資有価証券売却益	2,288	-
為替差益	9,761	-
その他	4,989	32,982
営業外収益計	393,834	549,227
営業外費用		
投資有価証券売却損	677	-
為替差損	-	8,094
その他	4,113	66
営業外費用計	4,790	8,160
経常利益	2,984,529	3,189,442
特別利益		
賞与引当金戻入益	100,063	-
特別利益計	100,063	-
特別損失		
貸倒引当金繰入額	-	5,000
その他	221	169
特別損失計	221	5,169
税引前当期純利益	3,084,371	3,184,273
法人税、住民税及び事業税	966,000	1,378,026

法人税等調整額	164,798	168,517
法人税等合計	1,130,798	1,209,509
当期純利益	1,953,572	1,974,764

（３）株主資本等変動計算書

（単位：千円）

	第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,000,000	2,000,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	156,268	156,268
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	156,268	156,268
資本剰余金合計		
前期末残高	156,268	156,268
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	343,731	343,731
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金		
前期末残高	1,100,000	1,100,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金		
前期末残高	12,806,951	13,220,524

当期変動額		
剰余金の配当	1,540,000	962,500
当期純利益	1,953,572	1,974,764
当期変動額合計	413,572	1,012,264
当期末残高	13,220,524	14,232,788
利益剰余金合計		
前期末残高	14,250,683	14,664,255
当期変動額		
剰余金の配当	1,540,000	962,500
当期純利益	1,953,572	1,974,764
当期変動額合計	413,572	1,012,264
当期末残高	14,664,255	15,676,519
株主資本合計		
前期末残高	16,406,951	16,820,524
当期変動額		
剰余金の配当	1,540,000	962,500
当期純利益	1,953,572	1,974,764
当期変動額合計	413,572	1,012,264
当期末残高	16,820,524	17,832,788
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	40,620	225,466
当期変動額		
株主資本以外の項目	184,845	133,310
の当期変動額（純額）		
当期変動額合計	184,845	133,310
当期末残高	225,466	92,156
評価・換算差額等合計		
前期末残高	40,620	225,466
当期変動額		
株主資本以外の項目	184,845	133,310
の当期変動額（純額）		
当期変動額合計	184,845	133,310
当期末残高	225,466	92,156

純資産合計

前期末残高	16,366,330	16,595,057
当期変動額		
剰余金の配当	1,540,000	962,500
当期純利益	1,953,572	1,974,764
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）	184,845	133,310
当期変動額合計	228,726	1,145,574
当期末残高	16,595,057	17,740,631

[前へ](#) [次へ](#)

重要な会計方針

	第37期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1.有価証券の評価基準 及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法を採用しております。 (2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価 法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、総平均法により算定）を採用しております。 時価のないもの 総平均法による原価法を採用しております。	(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左 (2) その他有価証券 同左
2.固定資産の減価償却の 方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 15～30年 器具備品 4～15年 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。	(1) 有形固定資産 同左 (2) 無形固定資産 同左
3.引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。 (3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。	(1) 貸倒引当金 同左 (2) 賞与引当金 同左 (3) 役員賞与引当金 同左

	(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。 (5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。	(4) 退職給付引当金 同左 (5) 役員退職慰労引当金 同左
4. その他財務諸表作成のための重要な事項	(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。	(1) 消費税等の会計処理 同左

会計方針の変更

第37期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
（リース取引に関する会計基準等） 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が適用されたことに伴い、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。当該変更に伴う損益に与える影響はありません。	

表示方法の変更

第37期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(損益計算書) 投資運用業等統一経理基準の一部改正（平成20年3月19日）により、以下の表示方法の変更を行っております。 (1) 前事業年度まで助言手数料を営業費用の「支払手数料」に含めて表示しておりましたが、当事業年度より「委託調査費」として区分掲記することといたしました。なお、前事業年度の「支払手数料」に含まれる助言手数料は、2,333,171千円であり、当事業年度の「調査費」に含まれる助言手数料は、1,651,234千円であります。 (2) 前事業年度まで「海外委託費」は、一般管理費に表示しておりましたが、当事業年度より営業費用の「調査費」と「委託調査費」に表示することといたしました。当事業年度の「調査費」、「委託調査費」に含まれる海外委託費の合計額は、360,564千円であります。 (3) 前事業年度まで「器具・備品費」は、一般管理費の内訳として区分掲記しておりましたが、当事業年度より「諸経費」の中に含めることといたしました。なお、当事業年度の「器具・備品費」は、84,833千円であります。 (4) 前事業年度まで「情報提供料」を一般管理費の「諸経費」に含めて表示しておりましたが、当事業年度より営業費用の「調査費」に含めて表示することといたしました。なお、前事業年度及び当事業年度の「情報提供料」はいずれも40,000千円であります。	-

注記事項

(貸借対照表関係)

第37期 (平成21年3月31日)	第38期 (平成22年3月31日)
1.有形固定資産の減価償却累計額 建物 132,619千円 器具備品 184,596千円 2.保証債務 被保証者 従業員 被保証債務の内容 住宅ローン 金額 31,092千円	1.有形固定資産の減価償却累計額 建物 207,904千円 器具備品 228,436千円 2.保証債務 被保証者 従業員 被保証債務の内容 住宅ローン 金額 27,211千円

（損益計算書関係）

第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
該当事項はありません。	同左

（株主資本等変動計算書関係）

第37期（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

（単位：千株）

	前事業年度末 株 式 数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株 式 数
発行済株式				
普通株式	3,850	-	-	3,850
合 計	3,850	-	-	3,850

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成20年6月20 日 定時株主総会	普通株式	1,540,000	400	平成20年3月31 日	平成20年6月23 日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の 種類	配当金 の総額 （千円）	配当の 原資	1株当 り配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成21年6月24 日 定時株主総会	普通 株式	962,500	利益 剰余金	250	平成21年3月31 日	平成21年6月25 日

第38期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

（単位：千株）

	前事業年度末 株 式 数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株 式 数
発行済株式				

普通株式	3,850	-	-	3,850
合 計	3,850	-	-	3,850

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月24 日 定時株主総会	普通株式	962,500	250	平成21年3月31 日	平成21年6月25 日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成22年6月28日開催の第38回定時株主総会において、次のとおり付議致します。

決議	株式の 種類	配当金 の総額 (千円)	配当の 原資	1株当た り配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月28 日 定時株主総会	普通 株式	962,500	利益 剰余金	250	平成22年3月31 日	平成22年6月29 日

（リース取引関係）

第37期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第38期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																								
1. ファイナンス・リース取引 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引（通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの） (借主側) (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額	1. ファイナンス・リース取引 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引（通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの） (借主側) (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額																								
<table><tr><th></th><th>取得価額 相当額 (千円)</th><th>減価償却累 計額相当額 (千円)</th><th>期末残高 相当額 (千円)</th></tr><tr><td>器具備品</td><td>4,823</td><td>1,045</td><td>3,778</td></tr><tr><td>合 計</td><td>4,823</td><td>1,045</td><td>3,778</td></tr></table>		取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)	器具備品	4,823	1,045	3,778	合 計	4,823	1,045	3,778	<table><tr><th></th><th>取得価額 相当額 (千円)</th><th>減価償却累 計額相当額 (千円)</th><th>期末残高 相当額 (千円)</th></tr><tr><td>器具備品</td><td>4,823</td><td>2,009</td><td>2,813</td></tr><tr><td>合 計</td><td>4,823</td><td>2,009</td><td>2,813</td></tr></table>		取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)	器具備品	4,823	2,009	2,813	合 計	4,823	2,009	2,813
	取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)																						
器具備品	4,823	1,045	3,778																						
合 計	4,823	1,045	3,778																						
	取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)																						
器具備品	4,823	2,009	2,813																						
合 計	4,823	2,009	2,813																						
(2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 926千円 1年超 2,934千円 合計 3,861千円	(2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 966千円 1年超 1,968千円 合計 2,934千円																								
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 支払リース料 1,070千円 減価償却費相当額 964千円 支払利息相当額 181千円	(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 支払リース料 1,070千円 減価償却費相当額 964千円 支払利息相当額 143千円																								
(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 支払利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。	(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 同左																								
2. オペレーティング・リース取引 未経過リース料 1年以内 2,104千円 1年超 1,609千円 合計 3,714千円	2. オペレーティング・リース取引 未経過リース料 1年以内 1,609千円 1年超 - 千円 合計 1,609千円																								

（金融商品関係）

第38期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

（追加情報）

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時

価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。

安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。

その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収収益は、主たる事業である投資運用業等より発生する運用報酬、委託者報酬が大半を占めております。これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどがファンド財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。

投資有価証券はその大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。

未払費用は投資信託の販売に係る支払手数料と運用に係る再委託手数料であります。

未払費用の大半を占める支払手数料は、ファンド財産の中から支払われるため、支払期日に支払を実行出来なくなるリスクは極めて軽微であります。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。

投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。

また、デリバティブ取引についても行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
（1）現金・預金	10,732,367	10,732,367	-
（2）未収収益	3,014,380	3,014,380	-
（3）投資有価証券			-
その他有価証券	4,182,854	4,182,854	-
資産計	17,929,602	17,929,602	-
（1）未払費用	1,472,849	1,472,849	-
負債計	1,472,849	1,472,849	-

（*1）未収収益のうち、金融商品で時価評価の対象となるものを表示しております。

（*2）未払費用のうち、金融商品で時価評価の対象となるものを表示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

（1）現金・預金、並びに（2）未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（3）投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

（1）未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
（1）其他有価証券	
非上場株式	291,423
（2）子会社株式	
非上場株式	1,169,774
（3）長期差入保証金	743,958

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。このため、（1）其他有価証券の非上場株式については2.（3）投資有価証券には含めておりません。

（注3）金銭債権の決算日以後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内
現金・預金	10,732,367
未収収益	3,014,380
合計	13,746,747

（有価証券関係）

第37期（平成21年3月31日現在）

1. 其他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価（千円）	貸借対照表計上額（千円）	差額（千円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるものの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-

貸借対照表計上額が 取得原価を超えない もの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	3,901,000	3,521,426	379,573
	小計	3,901,000	3,521,426	379,573
合計		3,901,000	3,521,426	379,573

2. 当事業年度中に売却したその他有価証券

売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
77,769	2,288	677

3. 時価評価されていない有価証券

(1) 子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額（千円）
子会社株式	1,169,774
関連会社株式	-
合計	1,169,774

(2) その他有価証券

区分	貸借対照表計上額（千円）
非上場株式	291,423
合計	291,423

第38期（平成22年3月31日現在）

1. 子会社株式

子会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式1,169,774千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

	種類	取得原価（千円）	貸借対照表計上額（千円）	差額（千円）
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	1,273,000	1,285,821	12,821
	小計	1,273,000	1,285,821	12,821
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	3,065,000	2,897,033	167,967
	小計	3,065,000	2,897,033	167,967
合計		4,338,000	4,182,854	155,145

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 291,423千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券

売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
-	-	-

（デリバティブ取引関係）

第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
当社は、デリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。	同左

（退職給付関係）

第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
1.採用している退職給付制度の概要 退職金規程に基づく退職一時金制度のほか、確定拠出年金制度を採用しております。 2.退職給付債務に関する事項 退職給付債務（退職給付引当金） 751,197千円 （注）退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。 3.退職給付費用に関する事項 勤務費用 128,898千円 <u>確定拠出年金掛金</u> 42,439千円 合 計 171,337千円 （注）退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。 4.退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 当社は簡便法を採用しておりますので、基礎率等については記載しておりません。	1.採用している退職給付制度の概要 同左 2.退職給付債務に関する事項 退職給付債務（退職給付引当金） 835,692千円 （注）退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。 3.退職給付費用に関する事項 勤務費用 144,118千円 <u>確定拠出年金掛金</u> 45,997千円 合 計 190,115千円 （注）退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。 4.退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 同左

（税効果会計関係）

第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳
流動資産 (千円)	流動資産 (千円)
未払事業税 14,717	未払事業税 67,959
賞与引当金 245,467	賞与引当金 290,614
社会保険料 22,200	社会保険料 28,209
未払事業所税 5,229	未払事業所税 5,090
その他 15,313	その他 9,404
（繰延税金資産の小計） 302,927	（繰延税金資産の小計） 401,279
繰延税金資産の純額 302,927	繰延税金資産の純額 401,279
固定資産	固定資産
退職給付引当金 304,986	退職給付引当金 339,291
投資有価証券 40,700	投資有価証券 40,700
ゴルフ会員権 37,190	ゴルフ会員権 38,408
役員退職慰労引当金 54,323	役員退職慰労引当金 70,417
その他有価証券評価差額金 154,106	その他有価証券評価差額金 62,988
その他 43,952	その他 64,125
（繰延税金資産の小計） 635,260	（繰延税金資産の小計） 615,932
評価性引当額 77,890	評価性引当額 79,514
（繰延税金資産の合計） 557,369	（繰延税金資産の合計） 536,417
繰延税金資産の純額 557,369	繰延税金資産の純額 536,417
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率
との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳
法定実効税率 40.6%	法定実効税率 40.6%
（調整）	（調整）
交際費等永久に損金に算入されない項目 0.9	交際費等永久に損金に算入されない項目 1.0
受取配当金等永久に益金に算入されない項目 0.3	受取配当金等永久に益金に算入されない項目 4.7
過年度法人税等 0.6	過年度法人税等 0.9
特定外国子会社等課税所得 1.6	その他 0.2
外国税額控除 1.7	税効果会計適用後の法人税等の負担率 38.0
その他 0.7	
税効果会計適用後の法人税等の負担率 36.6	

(関連当事者との取引)

第37期（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	-	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	2,078,153	未払費用	242,242
その他の関係会社の子会社	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	6,650	銀行業	-	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	3,549,060	未払費用	193,011

取引条件 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。

(追加情報)

当事業年度より平成18年10月17日公表の、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準委員会 企業会計基準第11号）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会企業会計基準適用指針第13号）を適用しております。

なお、これによる開示対象の追加はございません。

第38期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	-	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	2,590,851	未払費用	385,057

その他の 関係 会社 の子 会社	株式 会社 三井 住友 銀行	東京 都 千代 田区	17,710	銀行 業	-	-	当社投 資信託 に係る 事務代 行の委 託等	投資信 託に係 る事務 代行手 数料の 支払 1	2,955,228	未払 費用	259,188
------------------------------	----------------------------	---------------------	--------	---------	---	---	---------------------------------------	--	-----------	----------	---------

取引条件 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。

（１株当たり情報）

第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
1株当たり純資産額 4,310円40銭 1株当たり当期純利益 507円42銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり純資産額 4,607円96銭 1株当たり当期純利益 512円93銭 同左

（注）1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
損益計算書上の当期純利益（千円）	1,953,572	1,974,764
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	1,953,572	1,974,764
普通株式の期中平均株式数（千株）	3,850	3,850

（重要な後発事象）

第37期 （自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）	第38期 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
該当事項はありません。	同左

[前へ](#) [次へ](#)

(1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

		当中間会計期間末 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		10,525,471
前払費用		148,171
未収委託者報酬		2,203,738
未収運用受託報酬		1,104,303
未収収益		20,553
繰延税金資産		246,376
その他		12
流動資産計		14,248,628
固定資産		
有形固定資産		
建物	1	301,057
器具備品	1	57,397
土地		710
有形固定資産計		359,164
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券		4,542,609
関係会社株式		1,169,774
長期貸付金		4,078
長期差入保証金		743,946
会員権		161,517
繰延税金資産		503,671
その他		712
貸倒引当金		73,350
投資その他の資産計		7,052,959
固定資産計		7,908,203
資産合計		22,156,831

負債の部

流動負債

未払金		153,544
未払手数料		1,023,792
未払費用		780,875
未払法人税等		728,659
前受収益		103,481
賞与引当金		390,000
役員賞与引当金		31,800
その他	2	18,349
流動負債計		3,230,502

固定負債

退職給付引当金		901,430
役員退職慰労引当金		112,225
固定負債計		1,013,655
負債合計		4,244,158

純資産の部

株主資本

資本金		2,000,000
資本剰余金		
資本準備金		156,268
資本剰余金合計		156,268
利益剰余金		
利益準備金		343,731
その他利益剰余金		
別途積立金		1,100,000
繰越利益剰余金		14,360,677
利益剰余金合計		15,804,408
株主資本合計		17,960,677

評価・換算差額等

その他有価証券評価差額金		48,003
評価・換算差額等合計		48,003

純資産合計		17,912,673
-------	--	------------

負債純資産合計		22,156,831
---------	--	------------

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

		当中間会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	
営業収益			
委託者報酬			10,982,039
運用受託報酬			1,631,318
その他営業収益			48,476
営業収益計			12,661,834
営業費用			7,741,013
一般管理費	1		2,962,935
営業利益			1,957,884
営業外収益			
受取配当金			2,007
受取利息			3,756
雑収入			1,402
営業外収益計			7,166
営業外費用			
為替差損			10,712
営業外費用計			10,712
経常利益			1,954,339
特別損失			
固定資産除却損			146
特別損失計			146
税引前中間純利益			1,954,192
法人税、住民税及び事業税			706,332
法人税等調整額			157,471
法人税等合計			863,803
中間純利益			1,090,389

(3) 中間株主資本等変動計算書

(単位:千円)

当中間会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	
株主資本	
資本金	
前期末残高	2,000,000
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	2,000,000
資本剰余金	
資本準備金	
前期末残高	156,268
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	156,268
資本剰余金合計	
前期末残高	156,268
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	156,268
利益剰余金	
利益準備金	
前期末残高	343,731
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	343,731
その他利益剰余金	
別途積立金	
前期末残高	1,100,000
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	1,100,000
繰越利益剰余金	
前期末残高	14,232,788
当中間期変動額	
剰余金の配当	962,500
中間純利益	1,090,389
当中間期変動額合計	127,889
当中間期末残高	14,360,677
利益剰余金合計	
前期末残高	15,676,519
当中間期変動額	
剰余金の配当	962,500
中間純利益	1,090,389
当中間期変動額合計	127,889
当中間期末残高	15,804,408
株主資本合計	

前期末残高	17,832,788
当中間期変動額	
剰余金の配当	962,500
中間純利益	1,090,389
当中間期変動額合計	127,889
当中間期末残高	17,960,677
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	
前期末残高	92,156
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期	44,152
変動額（純額）	
当中間期変動額合計	44,152
当中間期末残高	48,003
評価・換算差額等合計	
前期末残高	92,156
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期	44,152
変動額（純額）	
当中間期変動額合計	44,152
当中間期末残高	48,003
純資産合計	
前期末残高	17,740,631
当中間期変動額	
剰余金の配当	962,500
中間純利益	1,090,389
株主資本以外の項目の当中間期	44,152
変動額（純額）	
当中間期変動額合計	172,041
当中間期末残高	17,912,673

中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

	当中間会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
1. 資産の評価基準及び評価方法	有価証券 (1) 子会社株式及び関連会社株式...総平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの...中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定） 時価のないもの...総平均法による原価法
2. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物15年～30年、器具備品4年～15年 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
3. 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。 (3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、当事業年度における支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。 (4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当中間会計期間末の要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。 (5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。
4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

会計方針の変更

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）
（資産除去債務に関する会計基準等の適用） 当中間会計期間から、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これによる当中間会計期間の営業利益、経常利益及び税引前中間純利益に与える影響はありません。

表示方法の変更

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）
（中間貸借対照表） 前中間会計期間までは流動資産の「未収収益」に含めて表示していた「未収委託者報酬」、「未収運用受託報酬」及び流動負債の「未払費用」に含めて表示していた「未払手数料」は表示をより明瞭にするため当中間会計期間より区分掲記いたしました。なお、前中間会計期間における「未収委託者報酬」、「未収運用受託報酬」及び「未払手数料」の金額はそれぞれ2,028,745千円、1,194,455千円及び935,292千円であります。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

当中間会計期間末（平成22年9月30日）	
1．有形固定資産の減価償却累計額	476,765千円
2．消費税等の取扱い	
仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他」に含めて表示しております。	
3．保証債務	
被保証者	従業員
被保証債務の内容	住宅ローン
金額	25,270千円

（中間損益計算書関係）

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）		
1. 減価償却実施額	有形固定資産	45,673千円
	無形固定資産	100,075千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

(中間期末決算等変動計算書関係)

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）					
1. 発行済株式に関する事項					
株式の種類	前事業年度末 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数	
普通株式（千株）	3,850	-	-	3,850	
2. 自己株式に関する事項 該当事項はありません。					
3. 新株予約権等に関する事項 該当事項はありません。					
4. 配当に関する事項 配当金支払額					
決議	株式の 種類	配当金の 総額（千円）	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月28日 定時株主総会	普通株式	962,500	250	平成22年3月31日	平成22年6月29日

（リース取引関係）

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）		
1. ファイナンス・リース取引		
リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引		
（借主側）		
（1）リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び中間期末残高相当額		
	器具備品	合 計
取得価額相当額	4,823千円	4,823千円
減価償却累計額相当額	2,492千円	2,492千円
中間期末残高相当額	2,331千円	2,331千円
（2）未経過リース料中間会計期間末残高相当額		
1年内	986千円	
1年超	1,469千円	
合 計	2,456千円	
（3）支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額		
支払リース料	535千円	
減価償却費相当額	482千円	
支払利息相当額	57千円	
（4）減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法		
減価償却費相当額の算定方法		
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。		
支払利息相当額の算定方法		
リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。		
2. オペレーティング・リース取引		
（借主側）		
未経過リース料		
1年以内	556千円	
1年超	-千円	
合 計	556千円	

（金融商品関係）

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

平成22年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
（1）現金・預金	10,525,471	10,525,471	-
（2）未収委託者報酬	2,203,738	2,203,738	-
（3）未収運用受託報酬	1,104,303	1,104,303	-
（4）未収収益（*1）	16,978	16,978	-

(5) 投資有価証券 その他有価証券	4,251,185	4,251,185	-
資産計	18,101,677	18,101,677	-
(1) 未払手数料	1,023,792	1,023,792	
(2) 未払費用（*2）	586,730	586,730	-
負債計	1,610,522	1,610,522	-

（*1）未収収益のうち、金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

（*2）未払費用のうち、金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

（1）現金・預金、（2）未収委託者報酬、（3）未収運用受託報酬、並びに（4）未収収益

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（5）投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

（1）未払手数料、（2）未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	中間貸借対照表計上額
(1) その他有価証券 非上場株式	291,423
(2) 子会社株式 非上場株式	1,169,774
(3) 長期差入保証金	743,946

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから

時価開示の対象としておりません。このため、（1）その他有価証券の非上場株式については

（注1）資産（5）投資有価証券には含めておりません。

（有価証券関係）

当中間会計期間末（平成22年9月30日）

その他有価証券

（単位：千円）

区 分	中間貸借対照表日における 中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	870,307	860,000	10,307

小計	870,307	860,000	10,307
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	3,380,877	3,472,000	91,122
小計	3,380,877	3,472,000	91,122
合計	4,251,185	4,332,000	80,814

（デリバティブ取引関係）

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）
デリバティブ取引を利用しておりませんので、該当事項はありません。

（セグメント情報等）

セグメント情報

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

1. 報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客よりの営業収益	10,982,039	1,631,318	48,476	12,661,834

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦の外部顧客よりの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客よりの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

該当事項はありません。

（追加情報）

当中間会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年

3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第

20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（1株当たり情報）

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）	
1株当たり純資産額	4,652円64銭
1株当たり中間純利益	283円22銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。	
（注）1株当たり純資産額及び中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。	

（注）算定上の基礎

1.1株当たり純資産額

項目	当中間会計期間末 (平成22年9月30日)
中間貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	17,912,673
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-
普通株式に係る中間期末の純資産額(千円)	17,912,673
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数(千株)	3,850

2.1株当たり中間純利益

項目	当中間会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
中間損益計算書上の中間純利益(千円)	1,090,389
普通株式に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益(千円)	1,090,389
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850

（重要な後発事象）

当中間会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）
該当事項はありません。

[前へ](#) [次へ](#)

4 利害関係人との取引制限

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

(1)自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

(2)運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

(3)通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)および(5)において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。

(4)委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

(5)上記(3)および(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5 その他

(1)定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

当社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟事件その他重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えると予想される訴訟事件等は発生していません。

委託会社の営業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとし、営業年度末に決算を行います。

[前へ](#)

第2【その他の関係法人の概況】

1 名称、資本金の額及び事業の内容

原届出書の内容は下記事項の内容に訂正されます。

(1) 受託会社

名称	資本金の額（百万円） 平成22年9月末現在	事業の内容
住友信託銀行株式会社	342,037	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

<参考：再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）の概要>

- ・資本金：51,000百万円（平成22年9月末現在）
- ・資本構成：住友信託銀行株式会社33.3%、株式会社りそな銀行33.3%、中央三井トラスト・ホールディングス株式会社33.3%
- ・事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- ・再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2) 投資顧問会社

名称

ビムコジャパンリミテッド

資本金の額

平成21年12月末現在：1,341万米ドル（約1,101百万円）

（注）米ドルの円貨換算は、平成23年1月末現在の株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝82.13円）によります。

事業の内容

金融商品取引法に基づき投資運用業等を営んでいます。

(3) 販売会社

名称	資本金の額（百万円） 平成22年9月末現在	事業の内容
株式会社三井住友銀行	1,770,996	銀行法に基づき、監督官庁の免許を受け銀行業を営んでいます。

以上

独立監査人の監査報告書

平成23年2月4日

大和住銀投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

有 限 責 任 あ ず さ 監 査 法 人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コースの平成22年7月30日から平成22年12月21日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コースの平成22年12月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成23年2月4日

大和住銀投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

有 限 責 任 あ ず さ 監 査 法 人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアジア・ハイ・インカム・ファンド・円コースの平成22年7月30日から平成22年12月21日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コースの平成22年12月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成23年2月4日

大和住銀投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

有 限 責 任 あ ず さ 監 査 法 人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

飯田 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

久野 佳樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）の平成22年7月30日から平成22年12月21日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アジア・ハイ・インカム・ファンド（マネープールファンド）の平成22年12月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

大和住銀投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

[前へ](#) [次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成22年 6 月16日

大和住銀投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

あ ず さ 監 査 法 人

指定社員 公認会計士 飯田 浩司 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 久野 佳樹 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、当社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[前へ](#) [次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成22年12月10日

大和住銀投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

有 限 責 任 あ ず さ 監 査 法 人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	飯田 浩司 印
--------------------	-------	---------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	久野 佳樹 印
--------------------	-------	---------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第39期事業年度の中間会計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成22年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、当社が、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[前へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成21年 6 月25日

大和住銀投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

あ ず さ 監 査 法 人

指定社員 公認会計士 飯田 浩司 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 久野 佳樹 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和住銀投信投資顧問株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第37期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和住銀投信投資顧問株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、当社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。